

甲賀地域獣害対策協議会先進地研修会を開催

12 月 17 日に、甲賀地域獣害対策協議会主催の標記研修会を開催しました。参加者は 30 名（10 集落から 18 名、関係機関等 12 名）でした。今回の研修では、甲賀地域で課題とされている緩衝帯整備の先進地である東近江市の取り組みを視察しました。

まず、東近江市農林水産課の小泉参事から、「東近江市の獣害対策」について講演していただきました。東近江市オリジナルの侵入防止フェンスと住民施工の注意点、里山を含む緩衝帯整備の経過、サル追い払いの注意点など示唆に富む内容でした。

引き続き、緩衝帯整備と羊の放牧を実施されている同市池之脇集落を視察しました。東近江市では防護柵と緩衝帯の整備をセットで推進していること、各種補助事業を活用し森林組合とも連携して、できるだけ地元負担を少なくして大規模な緩衝帯を整備していること、羊の放牧は池之脇を PR する場になっており、羊の世話は集落全体で分担し、地元を一つにまとめるシンボルにもなっていることなどを学びました。

参加者からは、「緩衝帯と丈夫な防護柵が非常によく機能している」「羊が雑草防除だけでなくむらづくりにも一役買っている」など、緩衝帯の整備を前向きに考えようという声も聞かれました。

当課では、森林関係者と連携しながら、緩衝帯整備を取り入れた獣害対策のモデル集落を育成していきたいと考えています。



東近江市からの説明



池之脇集落の緩衝帯に放牧された羊たち